資料６

≪各職能団体の調査結果から見えてきたもの≫

共通して多く出ている意見

・医療と介護の職種の連携は、全職種で不十分と感じている
・調整の際使用する共通書式やICTを使用したツールの作成
・医療職と介護職が集まる勉強会やディスカッションを行う、多職種が集まる交流の場の設置・開催

気になった意見

・サービス担当者会議やカンファレンスは、多くの職種で共通してできるだけ参加するように心がけている。
・急変時の対応が必要なケースは、全職種で主治医と連携がとれている。
・医師の会議等への参加は、医師の参加調整が難しくほとんど実施できていないようであった。また、協力してもらえなかった時の記憶が残り、それ以降医師に会議の参加を打診しなくなっているようだ。
・医師へのアプローチ方法が病院によって異なり、ケアマネジャーが戸惑っているようである。
・他職種と医師の間に医療相談員がいると、医師との連携がうまくいっているようである。
・連絡が無いため参加していない、打診があれば参加したい、会議をいつやっているのかわからない、といった、依頼が無いために会議に参加していない職種があった。
・病院のリハ職は、退院前カンファレンスの時に介護事業所やケアマネに会い情報交換しているが、短時間かつ要点の情報交換で終わってしまうため、情報を伝えきれないことがある。
・病院のリハ職は、医療相談員を通じ介護側と連絡を取っていることが多いため、介護職と直接会って情報交換する場が不足している。
・入院前の情報が不足しているため、リハ職はその情報をもっと欲しいと考えているようである。
・ICTを使用したインターネットを使用したソフトによる多職種間の情報共有は、医療側の職種に導入希望が多く見られた。